

令和 5 年度

第 4 回 区部ユース・プラザ基本構想検討委員会

令和 6 年 3 月 4 日(月)

午後 3 時 00 分 開会

○田畑課長代理

只今より区部ユース・プラザ基本構想検討委員会の第4回目を開催いたします。本日は大変お忙しい中、ご出席、またオンライン上でもご出席いただきまして、誠にありがとうございます。事務局を務めさせていただいております、教育庁地域教育支援部の田畑と申します。よろしくお願いいたします。

本日は Teams 上に同じ資料を映しながらご説明をまいります。本日の資料は次第の1から5にございます。初めにお手元の配布資料は1から5がございませうかご確認をいただければと思います。オンラインの方は事前に資料をお送りしてございませうので、ご確認いただければ幸いです。本日はこちらの会議次第に沿って議事を進めてまいりたいと思っております。また、本日の会議はおおむね午後5時までを予定してございませう。

次に出席者紹介ですが、こちらはお手元の資料1の委員名簿と座席表の配布をもちましてご紹介に代えさせていただきます。ご了承ください。また本日3回目に引き続きまして小池委員がご欠席との連絡を頂戴しております。3回目・4回目ご欠席ということで、本日、ご意見を頂戴しておりまして、後程こちらもお紹介させていただければと思っております。

本委員会は設置要綱第5条第3項により、定足数が満たされており、今回成立していることをご報告いたします。また本日は、五十嵐委員長・朝日委員がオンラインでのご参加となります。ぜひオンラインからも忌憚のない御意見をいただけますと幸いです。会議に先立ちまして傍聴の方につきましては、発言やチャット機能を使用しないよう宜しくお願いいたします。

それでは、今後の議事につきましては五十嵐委員長に以降の進行をお願いしたく存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

○五十嵐委員長

はい。よろしくお願いいたします。前回に引き続き議事進行を務めさせていただきます。早速議事に移らせていただきたいと思います。まずは事務局より資料の説明をお願いいたします。

○吉田社会教育施設調整担当課長

事務局の吉田です。よろしくお願いいたします。資料の説明に先立ちまして、本委員会は東京都情報公開条例に基づき、公開にて行わせていただき、会議資料、会議録等は後日ホームページなどで公開したく存じます。公開にあたり、個人情報や都民を間に混乱を生じさせる恐れがある未確定の情報などがある場合には一部非開示として取り扱えればと考

えてございますがいかがでしょうか。

○五十嵐委員長

今、事務局から本委員会と資料等の公開に関する説明がありましたが、皆さんよろしいでしょうか。会場の方もよろしいでしょうか。それでは、事務局の提案通り委員会は公開で行い、資料についても支障のない範囲で公開ということにいたします。

○吉田社会教育施設調整担当課長

はい、ありがとうございます。それではお手元にお配りしております区部ユース・プラザ基本構想検討委員会第4回説明資料をご覧くださいと思います。

目次の方ですけれども、論点の整理をしたうえで、新たな施設の機能等の順番のとおり説明をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、まず論点の整理の方から説明させていただきます。前回も、区部と多摩をあわせたユース・プラザ全体について御意見いただいております。今回に引き続く内容ですので論点の整理について、いくつか読ませていただきます。

一番上の部分ですけれども、都が担うべき役割につきまして、いただいた御意見ですが、「多様なニーズに応じられること、高校生以上の年代に対するサポートを充実させること、宿泊機能も含めて多様な体験が出来ることは広域的な施設として非常に重要」。2点目の方になりますが、「育成に携わる人材のそのものの育成というのが本当に大切。情報共有や研修・交流することが大事」という御意見をいただきました。3点目ですけれども、「孤立しやすい状態になっている若者へのアプローチを行う団体が活動しやすい環境を整備して、彼らの活動を支援していくことが大きな役割」。こうした意見をいただいております。

次のページになります。多様性を持った運営・事業について、1点目になりますが「多様なニーズとか専門性を広域的にフォローしていくうえでは都が全て担うより、NPO等と組んでやっていくことが前提にならざるを得ない。」2点目ですが、「一つのサードプレイスの役割ではなく、様々なサードプレイスが共存することによって若者がこの施設を利用する時に、ここに合う、ここが合うといった場所を見つけられる。より広い選択肢を持てる役割が必要となる。」3点目ですが、「利用者のターゲットになっている方に何を生み出せるかということをコーディネートしていく団体というのが施設には不可欠。」こうした御意見をいただいております。

次のページは、区部と多摩の特色についてです。1点目でございますけれども、「多摩ユース・プラザでは施設の中で全ての体育活動や体験学習が完結させるという感じがあるが、広域に周囲を巻き込んで多様な体験が出来るような形になると幅が広がって良い。」あとは、一番下のところが区部ユース・プラザに関してですが、「1つの団体が1つのことをやっていくのではなく、いろんな団体が同時多発的に多様なイベントを行っていくこ

とで、お互いのことを知って新たな競争が生まれていく。複数の団体が連携交流しながらきっかけを作っていく場所ではないか。」といった御意見をいただいているところでございます。

こうしたことを踏まえまして、今回は新たな役割について再整理をさせていただきまして、施設の目的ですとか機能、それから改めて区部などの特色ですとか運営の在り方について、御意見をいただければと思っております。

また、次のスライドになりますが、前回と今回、小池委員がご欠席されております。代わりに小池委員からは主に障害者の観点の方から御意見をいただいておりますので、参考にご紹介させていただければと思っております。抜粋ですが、いくつか取り上げさせていただきます。まず1点目のところですが、「知的障害と身体障害がある人の仕事体験を受け入れる場が少なく、企業などへの就職に至っていない面がある。仕事体験が出来るプログラムがあると自信をつけたり出来る、そういった体験が出来るが良い」といった御意見がございます。2点目ですが、「仕事体験を通じて同じような立場の人と交流が出来る場があると良い」とした御意見を述べられております。あとは3点目ですが、「宿泊施設を使って生活面の自立や一人暮らしなどに向けた短期の生活訓練が出来るが良い。」この点、比較的一人暮らしというのに憧れを持っているものの、ちょっと自信がない生徒というのが非常に多いという御意見をいただいています。最後に、次の下から2番目のところですが「特別支援学校、学校と家との往復だけだということで関わる人や場が限られて、情報が少ない場合がある。卒業後も含めて、障害のあるなしに関わらない幅広い人との交流や交友関係を広げるような場所であると良い。」一番下ですけれども、「学校が卒業後も関わらざるを得ない障害者の生涯学習的な観点からオンラインでのスポーツなどと言った、そういった企画だとか主催をするような拠点のような役割をして欲しい」。こうした御意見をいただいているところでございます。

次のスライドは、小池委員の方から仕事体験といったお話がありましたが、参考までにスウェーデンの国営企業の取り組みの例で掲載させていただきました。実際に日本でも、洗濯、介護サービス、倉庫保管・物流といった仕事を、特に知的障害の方が学校で学んだりして、卒業後も訓練施設で学んだりして職業に従事されております。イメージということで、参考までに掲載させていただいております。

次のスライドは実際にいろんな人との交流という意味で、参考で掲載させていただいております。こちらデンマークの全寮制の学校ですけれども、障害者と健常者が共に寮で生活して学んでいるといった事例になっております。こちらもご参考までに掲載させていただきました。

それでは次から、今回の議論の方に入っていきたいと思います。

新たな施設の機能等についてご説明させていただきます。新たな役割につきましては前回までご議論いただいたことを整理しております。まずターゲットについては高校生以上をメインとした子供・若者、特に様々な困難を抱える層といったことが話題となっていた

と思います。さらに、子供・若者支援をする立場の支援ということで、NPO 団体等も支援していくという意味でターゲットして考えられると思っております。

役割につきましては、宿泊機能を活かしてここでしか出来ない体験、例えば基礎自治体で難しいものなどですが、こうした体験が出来る施設という考え方であったと思います。具体的な取り組みとしては、下の枠内にあるようなご意見をいただいております、例えば多様な学びの機会の確保として、専門性の高い学習やインキュベーション、障害者の仕事体験、交流、NPO 団体等の支援の場としては、支援団体の活動や交流の場、指導者への研修、こうしたお話を伺っております。

次に、目的及び機能についてです。現在のユース・プラザはこちらの左側の部分にございますが、目的としては、「青少年の自立と社会性の発達支援」「生涯学習の振興」ということで、機能は下の4点になっておりまして、「主体的活動や交流の場の支援」「体験学習の場」「自立を促す場」「ネットワークの拠点」となっております。新たな考え方としましては、右側になりますが、これはこれまでのご意見を参考にしてイメージを記載させていただいております。目的は、「子供・若者の自立と社会性の発達の支援」とし、青少年の部分と言い換えておりますが、この考え方は世の中が変わっていても大きく考え方自体は変わるものではない、と感じております。ただ、様々な困難を抱える子供の増加ですとか、体験の機会の減少といった質的な面で変化が出てきているものというふうに考えられるかと思います。機能につきましては、現在の機能の上の3点の部分と連動していると思われる「多様な体験ができる場」というところで、一括りに考えられるかと思っております。一番下の「ネットワークの拠点」に関しましては、交流や情報交換の機会が必要であるということから、表現を「子供・若者を支えるネットワークの場」としましたが、このように考え方を整理できるのではないかとイメージとして、事務局で書かせていただきましたが、今回ご意見をいろいろと頂ければと思っております。

次に、区部・多摩の特色についてです。現在は左側にありますとおり、大きくいうと区部は「文化スポーツ型」、多摩は「野外活動型」の施設として、これを教育委員会で位置づけているものになります。新たな機能は、前回いただいたご意見を参考にして右側の部分で書いたものですが、このように明確に「文化スポーツ型」ですとか「野外活動型施設」というふうに言い切れるのかどうかということを含めて、ご意見いただければと思っております。例えば、多摩では引き続き自然を活かした経験ができるといったことは、前回のご意見でもいただいているところですが、区部での特色をあえて位置付けるというのもなかなか難しいかもしれません。区部であっても他の施設と連携して何か多摩とは違う、自然のような体験ができる可能性もあるかもしれませんし、区部と多摩で共通するプログラムの内容もあるかもしれません。そういうところで、地域性を活かしたプログラムにも取り組んでいく、このくらいの整理の仕方も考えられるかと思っております。明確に違いというものが、言い切れるものなのかとか、言う必要があるのかといった事も難しいところではありますが、ご感想等でも構いませんので、ご意見いただければと考えており

ます。

最後の資料になるのですけれども、こちら運営についてでございます。左側は現在の体制を図にしたもので、東京都が事業者と施設の維持管理ですとか、施設の運営、社会教育事業含めて一括して PFI 契約を行っています。左の図ですが、社会教育事業運営者という黄色くなっている部分がありますけれども、今後ここに新たな機能や事業を行っていったら、多様な体験活動のプロデュースや運営していくときに、このままの体制では難しい面もあるかもしれないと考えております。前回ご意見をいただいておりますが、右側に書かせていただいておりますが、例えば、「専門性などをフォローするため、都が全て担うのではなくて、NPO 等と組むことが前提」とか、「コーディネートしていく団体が不可欠だ」とか、そういったご意見もいただいております。もし具体的な事例も含めて何か参考になりそうなものや、あるいはまたご意見などあれば、こちらもお伺いしまして、今後東京都がこの事業をやっているときの運営の体制を検討する上で、参考にさせていただきたいと思っている次第です。説明は以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

○五十嵐委員長

ありがとうございました。今事務局から新たな役割について、整理していただいた後に、新たな役割を少し具体的なイメージ化したもの、目的及び機能といった点と、それから区部と多摩の役割、特色、それから運営についてと大きく議論としてはこの3点かというふうに思います。まず、この目的や機能について新たな考え方のイメージを示していただいているのですが、このイメージについて、補足ですとか、こう考えるべきだというものや、もしくは追加したい事項などがあれば、いろいろご意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。どなたかいかがでしょうか。

○王委員

王です。

○五十嵐委員長

王委員、よろしくお願いいたします。

○王委員

はい、ありがとうございます。今回、宿泊機能を活かしてというところで、まず、ここでしかできない体験を前提として、宿泊プログラムが施設を選ぶ上でどういった点が最低限整っている必要があるのかについてお話させていただければと思います。1つ目がまず会議室としてや会議場として適切に人数を収納できるということです。例えば、イベントによっては100名以上のイベント等が開かれる際に、その100人が全員集められる大

きい部屋も必要であり、一方で分科会みたいな形でグループワークをするときに、それぞれの部屋に分かれてグループワークが進められる会議室数が十分にあって、人数が収納できる状態である。2点目が、ネット環境です。恐らくこの施設自体が、何十年と運営されていく中で、現状のネット環境と今後のネット環境は変わってくる可能性があるなと思っていて、現状利用している施設に関しては、ネット環境もそうですし音響施設や映像施設など、どうしても以前のもとの入れ替えられない状態が起きてしまいます。そのネット環境、映像設備や音響システムがしっかり整っているところが、2点目となってくるかと思います。3点目は、各団体が自分たちで食事を用意するのかや、2つのユース・プラザの周辺でどこに食べに行くのが問題としてあるのかなと思っています。4点目は、ちょっと難しい部分として考えていく必要があると思うこととして安全性の確保です。宿泊施設によっては、夜間誰でも出入りが自由になっている状態の施設が多く、宿泊プログラムによっては、夜間スタッフが扉の前に立って、外出を禁止するわけではなく、外出するときに一緒について行くなど、そのスタッフの入れ替えとか、その部分が大変となっている印象があります。そういった出入りの部分だったり、緊急の時とかだったり保健室的な役割があるといいなと感じております。以上が、宿泊施設を使った体験が出来る前提として、宿泊施設に最低限ほしいと思っている情報となります。

○五十嵐委員長

ありがとうございました。色々な会議室が必要だというあたりと、ネット環境などの進歩に合わせていかなくてはいけない話、それから食事とか宿泊といったやや具体的な機能についてご指摘をいただいたという理解でよろしいでしょうか。

○王委員

はい。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。この辺も多様な体験ができる場に繋がるという理解で大丈夫でしょうか。

○王委員

そうですね。ありがとうございます。

○五十嵐委員長

分かりました。ではこのイメージを具体化するときの例として、こういった意見があったという整理をさせていただいてもよろしいですかね。

○王委員

はい。

○五十嵐委員長

はい。ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

○青山副委員長

青山です。

○五十嵐委員長

どうぞよろしくお願いいたします。

○青山副委員長

大きく2点あります。1つ目は様々なこれまでの論点の整理を考えたときに、施設の在り方でソフト的に解決できることと、ハード的に解決できることはもちろんセットで考える必要はありつつ、ある程度分けて考えておく必要もあるかと思っています。例えば、障害のある人たちも含めた職業体験のようなものを案として出していただいているわけですが、フォルスホイスコーレみたいなものは、事業としてやってしまえば出来てしまうようなものも多いと思います。ですからそのためにどういった施設が必要なのか、あるいはどういうコンセプトでやるのかというようなことを、施設的に大事なことと事業としてやればいいことは分けて考えておく必要があるかと思っています。できれば障害がある人の職業体験のためだけの機能のフロアができるというよりは誰でも使えるようなもので、ここでしかできない多様な体験の中に、生活体験とか社会体験のようなものが組み込まれている。そういうものもできるようなことが大事なと思いました。この前、北欧に行った際に、車を直すユースセンターがあったのですが、そういった面白いようなこともできるけど、これは誰かのためとかいうよりは皆のためだし、ハード的にこれがあることで可能性が広がるようなものとしてあるべきで、狭くそのためだけにしか使えないようなものとして置かない方が、施設としては広がりがあるのではないかと。むしろそういったものについては、このコンセプトの中での事業として解決していける方がいいのではないかと考えたのが1つ目の話です。

2つ目は、この目的及び機能のスライドで、ほぼ基本的なコンセプトは変わらないというお話だったのですが、左側の現在のところの機能が4つありますけれども、この一番上の「主体的活動や交流の場の支援」というところが右側では落ちているようにも見えています。他の機能は全部活かされて、この上だけが消えているようにも見えなくもないな、というのが気になっています。若者たちが主体的に活動するのだというところは、やはりコンセプトとして残しておけるといいなと思います。今の右側の書き方は、すごく教育的

で、大人が若者たちをこう成長させる場のように見えてしまう。むしろ若者たちの声を社会に反映したり、若者社会を繋げたり、新しい社会を作っていくのだと。例えば、今までなかった多様性、共生、エコ、そういった新しい価値観によって、ここから社会が変わっていくと言いきすぎですが、若者と一緒に社会を作っていく場所なのだというスタンスのほうが、今っぽい良いのだろうという感覚を持っています。前にも議論がありましたが、多摩が野外で区部が文化スポーツというのではなくて上位の目標が必要というときに、単に教育とか成長だけではない、もう少し上位のコンセプトも入れ込めた方が今らしいと思っています。もちろん基本的な要素にこの自立的な発達の支援があることは変わらないと思うのですが、そこだけに収斂してしまいすぎないことも重要なという印象を持ちました。以上2点です。

○五十嵐委員長

はい。ありがとうございます。確かに主体的な活動といったときに、今までどちらかというと受け入れというか、既存のプログラムがあって、それに参加するという感じだったと思います。青少年が自ら自立に向けてプログラムを作っていくとか、そういった理解をすると、今おっしゃられたところも新たな考え方としてうまく反映できるというなと考えました。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○倉持委員

はい。倉持です。今青山委員から伺った話と繋がるのですが、目的のところで「社会性の発達の支援」と書いてあるのですが、やはり若者を育てるという目線からすると若者の発達を支援するという感じだと思います。東京都の施設なので子供・若者が社会を担う正当な参加者であるということを考えると、その社会を作っていく担い手であるということなのだと思います。このあたりも少し進んだ表現の仕方があるのではないかなと思いました。あと後半の方でまた議論すると思うのですが、運営にも子供・若者が参加すると良いのではないかという意見も前回出たと書いてあります。孤立した若者とか、障害を持つ若者とか、多様な体験活動ももちろん重要だと思うので、そういった支援をするとともに、その子供・若者の参加や参画や主体的な活動をどういうふうに支援して実現していくのかなと思いました。先ほどの新たな機能というところでイメージがありますが、サイエンス、テクノロジー、インキュベーション、スタートアップといったところや、障害のある子供・若者というところもあるかと思います。今話したことと逆になるかもしれませんが、市民性を育てるというか社会課題を解決していくというか、社会の一員であるというか、地域参画、社会参画なのか、まだうまく表現はできないのですけれども、そういったことに実際に関わるような拠点であったり、都内に住む高校生以上のリーダー層というのでしょうか。そのリーダー層の人たちが実際に若者として声を発したり活動したりという部分が入ってくると、そこがイメージできるなと個人的には思いました。言葉がうまく表

現できなくて申し訳ありませんが、以上です。

○五十嵐委員長

ありがとうございました。今のご意見も青山委員の意見と共通するところがあるかなと思います。その中で最初の目的のところに、その辺の言葉を付け加えたらいいいのではないかなという御主旨かなと感じました。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

○朝日委員

よろしいでしょうか。朝日です。同じことかもしれないのですが、説明の最後の新たな施設の運営の黄色い事業運営者について、今までの反省や課題のようなところで、こういう形で運営してきたことが目指す目的に適っていたのかどうか、まずスタートとしてあったと思います。その意味では、何が生み出されたのか、何が成果だったのか、こういうスキームだとある程度きちんと言わないと本来はいけないところがあると思います。その意味で今までのご意見であったような施設の機能だと、何ができる施設なのか、その施設が供給できるものというふうになってしまうかと思うのですが、供給した結果、本当にそれをやりたい人がいるのかというニーズの話であるとか、それを供給できる人がいるのかとか、そういったところで本当にうまく活用できるかっていうところが変わってきてしまうかと思います。ですので、そこの目的のところをもう少し上位の具体的に何ができるっていうところと一緒に、何がそれで生み出されるかといったところに焦点を当てた方が良いのではないかなと思います。自分で主体的にプログラムを使う側が生み出すことができるとか、それによるアウトリーチができるというところになるのかなと思います。

また、新たな施設の機能について思ったのですが、多摩は自然、区部は文化とかいうところだと、それにもう一つ上位の概念が必要というのは私も賛成です。いずれにしろ、社会的な課題、エリア的な課題、地域課題みたいなものはどちらも出てきているかと思います。その自然的なことを活用するにしても、地域の事業者とうまく絡まっていけないとできないこともありますよね。だから地域への課題解決に開いていくような、そういったイメージがどちらもあるのではないかなと。それによってここで目指しているような発達や主体性といったところが育まれていくのではないかと思います。ですので、スポーツといってもどちらでもできるし、文化といってもどちらでもその要素はあるし、どちらにしても出来るということが外に開いて行って、地域だけじゃないかもしれないのですが、いろんな分野・主体に対して何かを生み出せるところがあると良いのではないかなと思います。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。ちょっと先の方まで行ってしまいましたが、恐らく区部と多摩の話ですとか上の話にも全部関わっていて、おっしゃられるとおり上位の概念っていうのでしょうか。目的みたいなところをよりハッキリ打ち出していった方がいいだろうなと。それ

の例示として色々、これだけの言葉だと分かりにくいというか、もう少しイメージを膨らませるような事例なりが入ると良いだろうということでしょうかね。

○朝日委員

はい。そうです。ありがとうございます。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。ほかにご意見があれば、可能な限りイメージを膨らませていきたいと思いますが、ほかの方もいかがでしょうか。

○岩切委員

よろしいでしょうか。

○五十嵐委員長

はい。どうぞ。

○岩切委員

第3回論点の整理で、間違っているところがあって、お互いのことを知り、新たな「競争」が競う方ではなく、共に創るという「共創」ですね。今からお話するのはまさにその話です。

ここでしかできない体験というのが、社会のスピード感を考えてもかなり変化していく可能性が高いですし、世界でここでしかできない体験と言い切るのはなかなか難しいだろうと感じています。もう一歩先までいかないと、それは何なのかというところまでいかないと、施設の役割として果たすには難しいところもあるのかなと感じております。

宿泊機能を活かしてというところがあるかと思いますが、例えば個人でいえば若者についてこれまで議論してきましたが、やはり生活が相当厳しい状況の子もいれば、何ができるのか分からない子もいるし、かといってリーダーシップをすごく発揮している子もいるなど、いろいろな個人の状況があります。これは団体も同じでして、これからスタートしていきたいけれども一人しかいないみたいなのもあれば、3、4人の仲間はいけれども物もお金も何もないという団体もあれば、ある程度ステージが上がってきている団体もあるということで、それぞれの個人や団体が置かれている状況でそれぞれ違うと思います。当然そこに対して必要な機会というのも当然変わってくると思います。そういう意味では、個人とか団体の段階に応じた機会を共に創っていく施設であるということを考えた方がいいのではないのかと思っています。

昨今、何かを提供するという言葉を簡単に使ってしまうところがありますが、提供するとそれはお客さんでしかないところがあります。共創というのは共に創るという意味ですから、できれば施設とある団体が社会課題に対して共に宿泊機能やネットワークを活かして

解決を目指していくとか、または個人の方々がこういった課題があるというところをスタートしていく機会を提供できるような施設として考えていけると良いと思います。前回、朝日委員だと思うのですが、若者の中には探究の話も結構出ていて、上位層は探究をどんどん勝手にやっていくのだけれども、何をしたいのか分からない層がかなりいるという話があったのをよく覚えています。そういう意味では、そういった方々にとってもここ来ると、もうちょっと掘り下げることや突き詰めてもいいのかもしれないと思えるような一つの機会を一緒に見つけていくような施設になったほうが、個人、団体にとっても非常に有益な施設でありつつ、5年10年経ったとしてもその必要性は変わっていかないと思います。なので、ある程度方法論としての進化・変化は前提に置いたような役割を設定した方がよいのではないかと思います。以上です。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。進化するという点では先ほど王委員の議論にもありましたが、技術的な進歩とかも含めて、色々と展開していくことが必要だと思います。それから共創という概念も出していただきましたが、皆さんの議論の中にもそういった概念があったと思います。それからネットワークを活かしていくというところで、おそらく施設と特定の団体というよりも、多様な団体が色々な形で共創していくようなイメージではないかなと思います。そういう中で作り上げていく考えは非常に良いのではないかと思います。

○王委員

お伺いしてもよろしいでしょうか。

○五十嵐委員長

はい。王委員どうぞ。

○王委員

ここでしかできない体験が何かを考えていくのですが、おそらくこの施設の中で新しい機会だったり貴重な機会が作られていく中で、施設を訪れる若者世代が熱中しているものだったり、好きから一步抜けている対象が何かこの場所であれば実現できる、もしくは体験ができる状態も必要だなと感じています。今のお話は、作り手の人たちが集まる場所という認識を持っていまして、もちろん作り手の人たちが、いろんな人を巻き込んでこの場所に訪れることも必要だなと思います。一方で、高校生・中高生たちが、例えば自分たちがどんな場所が欲しいのか、どんな機会が欲しいのか、というところがこの場所でも実現できるというような意見を反映して作られていくような機能もここでしかできない体験を作り上げていく上で必要かと感じております。もう少し整理すると、団体たち、もしくは作り手となる人たちが作れる場所と、高校生たち自身の意見や考え方を反映できる場所、

この2つの機能が備わっている状態が、ここでしかできない体験を生み出していくのではないかなと思っております。

○五十嵐委員長

ありがとうございました。おそらく団体や高校生等が主体となるところが上手く出会って新しいものを創っていくような、両方が単に併存したらいいわけではないという感じを受けました。ありがとうございます。

○青山副委員長

1点よろしいですか。青山です。

○五十嵐委員長

はい、どうぞ。

○青山副委員長

これまでの議論とも重なると思うのですが、ここでしかできない体験は、都の広域施設として、基礎自治体ではなかなか提供できない、単独の団体では提供できないようなことができるのがすごく重要だろうと思います。逆に、放課後の支援なんかは基礎自治体など狭いコミュニティでやった方がいいものもあるはずで、広い視野で考えたときに個々の自治体や団体等ではできない体験が提供できるのがすごく重要な価値だと思います。その中に宿泊も入ってくるし、あるいは多様な人々の利用に供するとか、活動範囲が広がる小中学生や高校生以上の若者たちの拠点になり得るとか、都がやるというところからスタートしたものだと思います。そして目的がもう一つ上位の方が良いだろうというのは私も思っていて、あまりミッション・ビジョン・バリューとかを作ることや、それに揃えるものじゃないと思いますが、例えば「こんな〇〇な社会を若者と一緒に創っていくための施設」くらいの社会像みたいなものがあって、そのためにこんな事ができるみたいな、フェーズをいくつか考えてみるとイメージがしやすいのかなと思います。その中のこの施設が武器になるものとして、都の施設として個々の自治体や団体ではできない体験を提供することであったり、宿泊的なものとか多様なニーズのあることができることとか、そこに都のネットワークとか色んな人たちと一緒に創っていくという価値がこの条件から導かれる環境的な結論だと思うので、そこらへんが大きな目的の下に入ってくるとスッキリするのではないかな、こんな社会を作るぐらいのことが一行目にあってもいいのかなと思いました。以上です。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。東京都がやるべき部分というところでの位置付けをキッチリし

ていくということで、今までの議論とも共通するものではないかと思います。区部と多摩の特色について色々なことを、朝日委員がおっしゃられていたと思いますが、「区部だから」「多摩だから」という若干立地面とかそういったことがあるのですが、地域に開かれていくとか、様々なネットワークがそこで出会うとか、そういったところはある意味共通の部分なのかなと感じました。このあたりいかがでしょうか。

○王委員

王です。区部と多摩の施設としての特色ということよりも、おそらく区部の周りで活動されている団体と、多摩の周りで活動されている団体の、それぞれの周りの地域資源とかを活用した特色があるのかなというふうに思います。今回、共創というキーワードだったりいろんな団体たちがこの施設を利用していくのにあたって、どんな団体が集まるかによってその施設の特色だったりその施設自体の目指していく方向性が変わってくるのではないかと考えております。先ほどの最終的な上位概念に関しても、例えば一つの最終概念を最後まで突き通すのではなく、地域によって集まる団体たちによって、団体だけではなく関わる高校生たちと一緒にその概念を地域ごとに創って、みんなで一緒にそこを目指しながら活動を広げていくような形でも良いのではないかと思います。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。おっしゃられていることは非常によく分かります。自然条件とかそういったところも反映はしてくるのだらうと思うのですが、自然体験・野外活動体験だとかそういうことではないということかなと思います。他にいかがでしょうか。区部と多摩のところでご意見はないですかね。

○青山副委員長

よろしいですか。青山です。

○五十嵐委員長

青山委員どうぞ。

○青山副委員長

地域の環境や持っている施設が違うわけなので、それぞれ今までの言葉を使えば、ここできできない体験の中身が違うことが各施設の特徴になるのだらうと思います。基本的な宿泊・交流・生活などは一緒だと思うのですが、その上でここできできない、ここに来ると個別にはなかなかできない体験ができる、その中身が区部と多摩で違うという状況があります。逆に、今後はその上の上位目標というのは共通ということを示した上で、そのための持っている引き出しが違うことがあると良いのだらうと思いますし、区部の人た

ちが自転車に乗って多摩のほうに夏休みに行っても良いような気がします。すごく具体的になってしまいましたが、そういう中で、上位は共通で、持っている引き出しが違うのだという棲み分けにしておくほうが、文化・スポーツのための施設と野外のための施設があるという区分けよりもスッキリするのではないかと思います。運営も両方を共通の運営にできたほうが良かったりするのかなどなのか。勝手な妄想していますが、このようなこともゆくゆくはあっても良いのかなという気がします。以上です。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。確かに共通する上位の概念というところで、更にその2つの施設があることによって、多様な活動という幅がより広がるというような、そういうふうに捉えたほうがいいかもしれませんね。少し運営の方の話にもなってきましたが、ひょっとすると1つの運営みたいな形でしたほうが良いのではないかと、そういうご意見も頂いたのかなと思います。区部・多摩に限らず、次の運営のところも含めて、ご意見を伺っていきたいと思いますがいかがでしょうか。

○倉持委員

倉持です。よろしいでしょうか。

○五十嵐委員長

はい、どうぞ。

○倉持委員

ちょっと質問なのですが、区部と多摩で明確な特色の違いや役割の違いがあった方がいいのか。大きな目標があつてのプログラムだったり、テーマだったりの違いみたいなことで一体化した方がいいのか。つまり、同じ機能があつて多摩地域と区部に二か所あるよというエリアが問題として考えていくのか、そもそも性質・目的・機能が違うから、やはり両方大事でどちらがなくなっても困るものか。長い目線で考えた時に、どれくらい特色とかを違えておいた方がいいのかという戦略的観点からすると何かあるのでしょうか。意見の出し方も変わってくると思いますが、事務局に分かる範囲で教えてもらえればと思います。

○吉田社会教育施設調整担当課長

事務局の中で、このことに関してしっかりと話し合った事はないので、あくまで私見になってしまいます。これまで現在の考え方にあるような文化スポーツ・野外活動型ということで区別はしてきて、行政的に言えば、それで予算もついてやってきてはいるので、今後事務局内でこれをどういうふうに整理していくかは、別の議論としてあるかと思ってお

ります。ただ、意見をいただきたいなと思っていたのが、このサービスだとかを関わったり受け取ったり、活動に入っていくのは都民なので、都民の方から見た時に、果たしてどこまでこうしたPRの仕方が必要なのか疑問があった中で、新たな機能のご意見をいただいていた中で、そこまでしっかりと対外的に示す必要はないのではないかといいところも考え始めていたので、今回ご意見をいただいた上で、改めて整理をしていこうと思ったところです。あまりしっかりとした答えにはなっていないのですが、そのように感じていたところです。

○倉持委員

ありがとうございます。両方の考え方があると思うので、東京といっても広いし区部と多摩と2つ拠点があることが大事だということも思います。一方で前に自分が利用していた時のことを考えると、BumBもわくわくビレッジもそれぞれ違う施設なのだと思うので使っていたことで思うと、それぞれ特色があるのもやり方の一つだと思います。もし、特色があるのだとしたら、例えば、区部の方は異質との出会い、より人の流動が激しい地域だと思いますし、色んな団体が集まる所でもあるし国際的な窓口でもあると思うので、グローバルな観点や、異なる世代の目的や団体が出会う場みたいな、そういう色付けができるのかと思っています。逆に、多摩の方は豊かな自然と環境にしろ、担い手にしろ、どう循環させていくかという持続可能な社会をどう作っていくかということにより観点が置かれるような気がするので、そういった部分に特色があってもいいのかなと思いました。これというものがあるわけではないので、そもそもの考え方をどういうふうにしていくかということも、今後検討が必要だと改めて分かりました。ありがとうございました。以上です。

○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。考え方の視点ということで、ご提示いただいたということで、上手く特色を生かしながら青山委員のおっしゃった上位の概念として、それを達成していくために多様な活動をより幅広く実現していくために、上手く使い分けていくのでしょうかね。そういう整理も必要かもしれませんね。

他にいかがでしょうか。多摩、区部の問題と運営の問題と合わせて議論していった方がいいかなと思うのですが、今のご意見もちょっと運営に関わっている部分があるかなと思いましたので、よろしくお願いいたします。

現時点でいくと、PFI事業者は区部と多摩で違う事業者がやっていて、それぞれの事業者が用意するプログラムを提供している状況になっていると思うのですが、おそらくもう少し違った形になってくることが考えられますね。それも含めていかがでしょうか。

○王委員

王です。

○五十嵐委員長

はい、どうぞ。

○王委員

両方ともメリット・デメリットあるなと感じていて、同じ運営の母体ですとおそらく両方の施設で同じ目標に向けて取り組むことができ、団体が共創して一緒に何か実施していくことができると感じている一方で、分けた方がもしかしたらそこで生まれる機会の可能性が広がるのかなというところですね。もっともどこの部分を一番重要にしていくべきなのかが、明確ではないと思っていますが、例えば共創を重点に置くとしたら一つの運営母体の方がいいと思いますし、若者の関わりを増やしていくことやその母体自体に関わりを増やしていくのであれば、分けて入れた方がそもそもの運営として、2つの違ったサードプレイスが出来上がるのではないかと思います。ですので、どこを重点的に置くかと言うところですね。あと、運営に関しての母体的な部分に関するお話でしたが、ものすごく重要な役割として、コミュニティマネージャーの存在が必要かなというふうに思っております。いろんな団体だったり、色んな考え方が入り混じっていく中で、同じ場を提供するだけでは、おそらくそこでの共創だったり、新しい人たちがどんどん入りにくくなる状況が生まれてしまうなと感じています。PFIの事業者だけでなくいろんな団体たちの特色までを知らなくてもいいと思っていますが、交流を促進させていきながら、新しい団体との交流を促進させていき、高校生たちも関わりやすくなっていくような、そういった役割が必要なのではないかと感じています。

○五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。重要なご指摘だったかなと思います。いかにコーディネートしていくのか、いかにプロデュースしていくのか。そういう人材がやっぱり必要だというようなお話かなと思います。そうすると今の運営形態のなかでPFI事業者にそういったものが担えるのかは若干疑問があるところではあります。それも含めて何か他にご意見や、具体的にこんな運営があったらいいとか、こんな事例がありますよ、みたいなところもあれば教えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○岩切委員

よろしいでしょうか。岩切です。

○五十嵐委員長

岩切委員をお願いします。

○岩切委員

運営事業者の件ですが、そういう施設を年に何度も利用している人間として感じるのは、宿泊施設と一緒に色々な団体が泊まるのはよくある光景ではありますが、年々、運営者側も極力交流しないようにしている気がしています。というのは、個人情報の問題だとか、揉め事にならないようにしているというか、そのあたりを当事者間で話し合っとうこうというのは減った印象ではあります。なので、何かあると当事者同士というよりかは、施設の方を挟んでお話をするか、後は利用者会議みたいな場で事前に根回ししながら周知したりとかして、そういう傾向は間違いなくあるのではないかなと思っています。なので、似たような活動をしている団体同士が情報交換、交流しながら協働するような話になるかという、かなり程遠いものがあるのではと思っています。また、運営事業者に関してですが、特定の事業者で完結してしまう傾向は強いと思っています。例えば、わくわくビレッジでいうと、野外活動はYMCAでPAはプロジェクトアドベンチャーで、そこから輪が広がっていく訳ではない。そういう意味ではある程度この団体この組織とわくわくビレッジが、何かしているぐらいのところで止まるといいますか、あとは一緒に何か創するというよりかは施設利用者としては色々な人が利用していると思いますが、これも共創していく相手として多様な地域資源を、例えば運営事業者が開拓したり団体を育てるような行為、例えばBumBの方でも毎年若者に対して、コンペ的なことをされていらっしゃるけれども、コンペの応募数が増えていくような試みをしているのかっていうと、あんまりそういう声は聞こえてこない。そこに応募したくなる人達がどんどん増えてくれば増えてくると思うのですが、なかなかそうならない現実もあると思っています。そう感じると慣習的にそういう場は用意するけれど、もっと手前から意欲的な個人と個人を結んでいくとか団体と個人を結ぶとか、いわゆる社会教育主事がやっていたようなベースの事を、地域資源を理解しながら進める方が、今風で言うとなまさにコミュニティマネージャーだと思います。まさにそういう存在が、理解して取り組めるような事業者でないとサービスを供給し消費する関係性はできたとしても、共創していく段階までステージを上げていくには、いろんな施設を利用していてもあまりない印象はあります。

○五十嵐委員長

おっしゃる通りだと思いますね。まさしくそういう共創みたいなものを上手く作り出していけるような運営の在り方というのでしょうか。それが事業スキームの中でどう実現していくのかは非常に大きな課題かと思いますが、今までのやり方ではないのだろうと少なくとも思います。次に朝日委員いかがでしょうか。

○朝日委員

新たな機能を担うための運営についての項目で言っていることが、前にビジネスの方で見たことのある共創施設の運営者にすごく該当するような感じがしています。ここの社会教育事業運営者っていうところそのものというよりは、その上位に今ご意見にもあったような共創をマネジメントするような主体が要と思います。ビジネスと違い、非常に広い個人情報も扱い、困りごともあるっていうようなところもあるので、専門的な役割があるところと、きちんと繋がれるような共創専門のもう一つこの図の上に並列ではなく、下の資源を上手くコーディネートできる主体が必要なのではないかと思います。もう書いてあることかも知れないのですが、先程からあるような区部と多摩が上位で課題解決して何かを作り上げていき、サポートする方も成長できるような場を目標にしたときに、同じスポーツでも区部だったらeスポーツのようなことをやれるけど、多摩だとリアルでいろんな事ができるとか、その課題に応じて何が比較優位であるかというところをコーディネートできる主体が必要だと思います。そういう意味では、先ほど委員長もおっしゃられたように区部と多摩の資源と一緒にマネジメントできる主体が望ましいのだろうなと思いお話を聞いていました。以上です。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。確かにインキュベーションとかそういった施設も民間企業主体でどんどん出て来ているのですが、社会教育分野でまだそういう施設は聞いたことがないです。あるのであれば教えていただければと思いますが、東京都としてそういうところに先進的に取り組んでいくような形になってくるのでしょうか。

他にそういう運営のところで今、朝日委員にヒントもいただいたと思うのですが、他に何か事例的なものですかアイデア的なもので、ご意見があればお伺いしたいと思います。が、いかがでしょうか。

○青山副委員長

青山です。

○五十嵐委員長

はいどうぞ。

○青山副委員長

2点あります。1点目が区部と多摩の関係性の話です。ちょっと一個前の議論になりますが、倉持委員がおっしゃったようにどれだけ戦略的に分けて見えるようにするのか、一緒に見えるようにするのかについてです。最終的な上位の目的が、ある程度揃っていることがすごく重要だと思いますが、見せぶりのところで、例えばユース・プラザイーストと

ユース・プラザウエストでいいのかどうか。その方がいい面もあるような気がするし、それだと分かりにくい面もあるかもしれません。意味を足すなら、ユース・プラザブルーとユース・プラザグリーンぐらいなら意味が出てくるのかわかりません。つまり共通性が見えた方がメリットのある部分と、逆にそれによって見えにくくなる部分と両方あるような気がしますので、そこは戦略的に上位の目標は共有しつつ見せ方は変わってくるのだろかなという印象を持ちました。

2つ目は運営の話なのですが、皆さんがおっしゃることはもう本当に私も同じ感覚ではありつつ、結構難しい役割だと思います。つまり高い専門性がある役割だと思っていて、本当に単純にちゃんと人件費が払えとか、それができる人材が来る運営形態にできるかどうかには最終的には収斂してしまう気もしています。短い委託期間よりも長くできるのはPFIの強みですけど、高い能力を持った人材が来る仕組みにできているかどうかは難しいことは百も承知で言いますが、すごく重要だろうというのが一つ。もう一つはやっぱり20年経って今でもFAXでしか送り込めないような状況が改善されづらい状況にあるのではないかという気もしていて、各社出来ることもあるのですが、いろんなことが時代の変化にキャッチアップしづらくなっている。公共施設なので全てがホテル並みである必要はないと思いますし、手続き自体に意味があるようなものもあります。利用者会議みたいなものが残っていることだって、ホテルとは全然違うし、鬱陶しく思う団体があるかも知れないけど、そこに意味が乗せられてきた面もあるので、全部が便利だけでいいとも思わないです。もう一方である程度そういったことを良くしていくだけの体力が、運営団体側になくて、日々の業務に追われて人も少ない中で、仕様書のボリュームを大きくして同じお金でやってね、だけでは多分うまくいかないと思います。だからそこを改善出来る仕組みを何とか捻り出していくことが重要な気がして聞いていました。以上です。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。今ご指摘の点はPFIのかなり欠点でもありますね。なかなか変化に対応できないですとか、専門的なサービスというところでどうしてもお金が絡んでしまっていて、十分な人材が手当てできないですとか。ひょっとするとそういった部分をうまく東京都の方に分けて、それで運営なりそういったところは会社に任せるとか、うまく役割分担と協力関係を作っていく。これも難しいと思うのですけれども、そういうやり方が必要かもしれません。ほかに、いかがでしょうか、結構議論が詰まってきたかなと思いますが、運営及び区部と多摩の違いに遡っていただいても結構です。ご意見があれば承りたいと思います。

○岩切委員

運営組織に関してのお話なのですが、いずれにしてもコンソーシアム型で多分やられていると思うのですね。いわゆるコンソーシアムでも、ハードを担当する会社とソフトを担

当する会社みたいな分け方は、よくある感じかなと思うのですが、恐らくその専門性自体が結構いろいろ細分化されていて、高度化しているのが現状だと思います。そういう意味では、そのソフトの事業者が一社で、すべての専門的なところを担っていくのは不可能だと思います。例えば、もう少し広いコンソーシアムを組むか、あとは社会事業に関するコンソーシアムを、うまく専門分野の自然体験に関してはこの団体とか、ユースワークとかを進めていくのにはこの団体とか、テクノロジーに関することはこの団体とか。そういう意味では、そこはPFIほど長い期間でなくてもいいかなって気はします。例えば数年おきに、テーマに関するパートナー団体が2つ3つある形で、多少の入れ替えがあっても、1つのテーマに対して、そこに対して専門性をもった団体たちが集って、年間での施設の事業として考えるのか、団体を加味したものとして考えるのか、いろいろあるとは思いますが、もう少し動きやすさとか、対応ができるような形での事業のあり方を考えられた方がいいかなと。どちらにしても施設が、直営で物事をやってくるのでは、なかなか難しい状況にはなっている気がします。これは以前の会からも言ってきていますけれども、NPOのネットワークなんかをいかに、施設の立場で言うところと取り込んでいくと言いますか、一緒にやっていくような形として、もっていくかがすごく重要なと思います。NPOにも中間支援組織があって、それをやっている組織はいっぱいあるので、不可能ではないと思います。実際にある中間支援団体さんが集まる会なんかだと、部屋ごとに、子供若者はこの部屋、環境に関してはこの部屋という形で、それぞれに激論を交わしながらやっていて、団体のサイズが違ったりその中での区分けがあったりとかするのですが、それが現実民間では行われているということを考えると、決して不可能ではないのではないかなという気はします。以上です。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。民間でやられている中間組織とNPOとの関係ですとか、そういったところはもう少し勉強してみる価値はすごくあるかなと。そういった柔軟な運営体制なり変化に対応できるような運営のあり方みたいなものを、うまく取り入れていくのはすごく重要なとお話をお伺いして思いました。多分貴重な例になるのではないかなという気がします。他にいかがでしょうか。

○王委員

はい。

○五十嵐委員長

どうぞ。

○王委員

NPO であつたり社会教育を支援する団体は現状増えているような印象で、そのうえで完全に事業として支援しているっていう事業者だけではなく、長年 NPO としていろんな団体と共創してきた団体においても、その部分は実現できるのかなと感じています。ただ、そこで必要とされる専門性は、交流の促進の部分や、新しい事業とか考えを作っていくうえでどうやって施設と融合させていくのかの部分なのですが、高校生や大学生でもできる範囲があるのではないかと感じています。特に、人手が必要な部分と、いろいろコミュニケーションをはかっていく部分と一方で、そのコミュニケーションの間に入って摩擦をなくしていく部分に分けられると思っています。摩擦をなくしていく部分に関しては結構専門性は高いと思いますが、関わる団体、企業、高校生、大学生たちとコミュニケーションをとっていくのは、高校生、大学生の組織があってもいいのではないかと感じております。もう一つ、まさにその高校生、大学生が関わる範囲ですが、まだこの運営組織の中でいるうちに、若者たちの意見が取り入れられていく、それが実現していくような状態があまりまだ見えていないと感じております。そもそものところで、発信自体も必要だなと思っていて、この場所自体、この施設に関して、例えば先程の予約しやすいとかだったり、そういったシステムの部分含めて、この場所がどんな場所であつて、どういうふうに自分たちの意見が取り入れられていくのかという事例だったり、そういった発信を続けていきながら、より広く高校生たちとか大学生たちが関われるような場所であつていったらいいなと思います。例えば、事例的な話で言うと、イメージ的にはスウェーデンのユーモという行政が担っている性教育の施設がスウェーデン中の各地域にある状態です。そこはものすごくメディア発信をとおして、自分たちのメディアの中で、性教育について情報開示していきながら、予約システムとかを使って、その場に対しての相談がしやすい状態や情報発信だったり、東京創業ステーションとかに関しては、伴走していきながら、いろんなスペースを持っているからこそ、そこでいろんなワークショップとかだったり、自分たちの実現しようとしているアイデアを実施できる場所だったり、本当に、そこに関してはいろんな事例があるなと感じています。なので、メディアを通して発信していきながら、若者からの意見を取り入れて、若者たちがそのコミュニティの中の運営を担っていくような、そういった組織形態が実現できるのではないかなと思っています。

○岩切委員

付け加えていいですか。岩切です。

○五十嵐委員長

どうぞ。

○岩切委員

青山委員が多分関わられていたかと思うのですが、尼崎がユースワーク非常に頑張っております。若者が新しい発見とかをしていくことをテーマにされてらっしゃるユースセンターだったと思うのですが、第一義的に教育色がないというか、教育される怖さがない。若者からすると、ここへ行くとなんかされるぞということではなくて、本当、安心・安全な施設なのですね。別に目的なく来ていいよ、ゆっくり休んでいいよ、好きなことしていいよ、という印象を与えてくれる施設です。なので、個人でも行きやすいですし、2～3人のグループでも行きやすいです。そういう中のメンバーが、中高生たちが放課後とかに来て、おしゃべりしたりだとか、ビリヤードしたりとか、ダーツしたりみたいな感じなので、児童館色もあったりします。そういう施設の中で若者がリラックスできる状況をつくりつつ、その中でイベント的な色があまり少ない中で交流をさせてくれるところがすごく上手だなという感じがしています。そういう交流を図りながら今は確かスケートボード場、集った若者でスケボーやる場所ないよねと言いながら、自分たちで社会実証実験なんかもやりながら、だんだん地域や役所の理解を得つつ、今は確かクラウドファンディングしながら役所の敷地内でそういったボードのパークを作ろうとしていたりします。まさに若者の声を束ねながら若者自身がその声をどうやって発信していったら、場合によっては行政を動かしたりだとか、若者の声を受け取ってくれやすいのかというところをサポートしながらユースワークに取り組んでいるというところが、非常に注目されていて、いろんなところが視察に来たりしているようです。その運営主体もたしか複数のNPOから人が出向をしていて、たしか1団体ではないと思います。3団体か4団体から職員を出し合ってそれぞれの専門性を持ちながら、ゴールとするところは一緒に考えつつ運営をされていらっしゃるケースもあります、これまでの議論ですと、どうしても団体の話として挙がってきいたりしている部分もありますが、高校生だとか若年層のことを考えれば、もうちょっとう、肩肘張らないで、参加をしやすい雰囲気を作りつつその声を拾っていくような形の取組ができるような運営の形式というのも一方で考えていかないと難しい。団体に関しては多分共創が重要で、個人に関してはそういった、安心・安全・自由みたいなところからスタートしていけると良いのではないかなと今お話ししながら思いました。

○青山副委員長

尼崎は直接関わっているわけではないのですが、いろいろ情報は聞くことが多いです。市役所の壁で、プロジェクションマッピングで子供たちがゲームをしたり、市長や教育長が若者に寄っているところが強い。これはリーダーシップがあつてのことだと思うのですが、いろんなことが起きている施設だなという印象はありますね。市全体で取り組んでいるところが強みなのかなと思いつつ、より広域的な都の範囲で見たときに、どういうふうにスケールを大きくしていくと良いのかなと今考えていました。一つは別の話になってしまうかもしれませんが、そういう話をしていくのであれば、運営体制の中にアウトリ

一時的な機能みたいなものを組み込んでいけると良い面もあるかと思っており、施設に人を呼び込んだり出かけて何かをやったりなんてことも思っています。あと、若者に主導権を預けていくという意味では、住み込みのインターンとかがいても面白いかなと思ひまして、1年くらい個室と食事をつけてそういう人たちが施設の運営の中にいるような体制もできてしまうなど今考えていました。

○五十嵐委員長

そういう事例も参考に人材をどんどん流動化させていって、運営に回っていたところが次に利用者に回るとか、そういった形でうまく循環していくことによって変化にも対応できるし、多様な活動が実現できるような姿なのかなという気がします。他にいかがでしょうか。

○岩切委員

基礎自治体でできないという意味では、そもそも高校生以上の子たち、例えばよく言う22歳位だっているのはよく出て来ます。中高生児童館がやっていればすごい方だなという感じですね。自治体でいうと、ちなみに江東区では高校生以上対象の施設はないです。江東区の亀戸と北部の方に青少年プラザが1個だけあるだけで、人口的には豊洲とか増えているのですが、有明含めて湾岸部には一つもないのです。そういう意味では、そもそも高校生、18歳を切らないというか、22歳くらいの大学生くらいまでも想定してやっている青少年施設というのは、あまり聞いたことがないです。そもそも基礎自治体が多分15歳までをいったん括りとして考えていて、それぞれ取り組みはされてきているっていうところが現実なので、それ以上に関する取り組みとしての広域自治体としての意味合いは、十分そこをターゲットしているだけでも価値が高いといえますか、要素はすごくあるのかなというの思います。

○五十嵐委員長

ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。朝日委員どうぞ。

○朝日委員

すみません、ちょっと話が戻ってしまうかもしれませんが、運営の仕組みの話です。こういった専門性の高い分野で、例えばPFIとか、あるいはインキュベーションみたいなことをやる難しさはあると思います。フィービジネスとしてやっていると整合性の高い人材はなかなか見合わないとか、あるいは探してくるのが難しいということがあると思います。もう一つ、共創みたいところの運営の仕方を見ていると、サービスだけで対価を保障するという形だけではなくて、ストックの部分を見てあげると、この事業をやることによる人材育成の部分をきちんと見てあげることが必要なんじゃないかなと思います。

サービスだけを提供して、それで対価をもらって終わりというふうになると、特に施設系は難しいところがあるので、ここで何か培った専門性とか人材育成的なものを東京都の人材育成の方にフィードバックするとか、企業の方の共創なんかもそういったところが実はポイントになっています。運営とかイベントを何とかするところは、なかなか成果も見えにくいし取り組みにくいといえれば取り組みにくいです。取り組める会社はありますが、その成果をきちんと東京都の方で何らかの見える形で仕組んであげること、例えば東京都の人材と絡まったことによる人材育成効果とか、業界・プラットフォーム的なものでの人材育成効果とか、そういったストックの部分をきちんと評価してあげるような仕組みが必要なのではないかなと思ったところです。以上です。

○五十嵐委員長

すみません、急用ができてしまって、外さなくてはいけなくなりました。残りの議論ありましたら続きをお願いできますか。

○吉田社会教育施設調整担当課長

承知いたしました。青山副委員長、進行をお願いできますでしょうか。

○青山副委員長

分かりました。言い足りないことを言い切って終わりにしたいと思います。全部の議論まとめてでも良いと思いますので、ここまでの議論を踏まえて皆さん言える範囲で発言していただいて終わりにしたいと思います。いかがですか。

○岩切委員

事務局に聞きたいのですが、委員会としては区部ユース・プラザにという話もあるのですけども、多摩の位置づけを語るにはどこまで語って良いのか、気になりながら考えていました。分けたほうが良いという話なのか、多摩はこうであるみたいなどころもある程度、考えながら詰めていっていいのか、気になりました。

○吉田社会教育施設調整担当課長

はい。区部を考えていく上で、どうしても多摩のことは避けて通れないと思っていますので、多摩についても同じように意見をいただければと思っています。

○青山副委員長

最終的に区部のことを考える会ではあるけれども、多摩とは関係の中で考えるような形ですかね。

○吉田社会教育施設調整担当課長

そうですね。区部のことを最終的にはまとめはするのですが、それに関係してくること、例えば両方共通した新しい機能だとかに関しては非常に大きいことなので、結局は両方合わせたまとめにはしたいと思っております。

○青山副委員長

まもなく多摩の期限が切れるわけですけど、そのときにまた改めて多摩も検討するので、この場が多摩も兼ねているということですか。

○吉田社会教育施設調整担当課長

多摩もおっしゃる通り間もなく期限が切れますので、今回兼ねさせていただいております。

○青山副委員長

了解しました。あと王委員。どうぞお願いします。

○王委員

ありがとうございます。3点思ったのが、1つがまず企業との関わりについてです。例えばサイエンスとかだったり、テクノロジーに関してどうしても企業が最先端のものを持っているところがあったり、体験できるものが多い状態です。仕事関係に関しても企業の方が、より幅広く選択肢を持っている状態ですので、そこでの企業の関わりをどこまで増やしていくのが1点目です。

2点目は結構軽いアイデアなのですが、最近立命館アジア太平洋大学A P Uとかでも高校生が副学長を始めていたりとかだったり、高校生がある程度サミットメンバーみたいな団体をもって関わりあっていくという形ですので、完全に一つの高校生の部署とかだったり高校生がある程度の発言権をもった組織形態でも良いのではないかと思います。

あとは本当に、全然今まで方向性とちょっと違う場合にはなるのですが、今まではどうやって利用して頂いて、その中でどう利用を増やしていくのかでしたが、もう少し施設としての自由性があっていいのではないかなと思っています。それこそ例えばデパートのテナントみたいなイメージなのですが、完全に何もない空間を定期的にいろんな団体が入れ替わりそこを利用していくみたいな形も必要なんじゃないかなと思っています。その背景にあるのが社会教育のイベントだったりプログラムが、本当に不定期で開催されていたり、もしくは定期的に開催されていたとしても多くは本当に夏休みとか冬休みとかに限定して開催している状態ですので、いつ訪れてもこれができるという場所があんまりないなと感じています。ですので、そういった自由性が高く、なおかついろんなニーズが入れ替わりできるような場所があるといいなと思っています。そこを高校生たちが選ん

で、この時期にこういうものが欲しいというように提案して、そこに企業であったりNPOとか入っていくような仕組みとかもあって良いのではないかなと思いました。

○青山副委員長

博物館に常設展と特別展があるような色んな人が入ってくるみたいなイメージですか。

○王委員

そうですね。はい。

○青山副委員長

企業のことも今まであんまり出てなかったところですね。ありがとうございます。他いかがでしょうか。

○岩切委員

「自立と社会性の発達の支援」というワードがありますが、例えばその年代を高校生以上と考えていったときに、先ほど生活の安全安心というのが土台は絶対必要だというのは大前提ですけれども、その先を考えた時に、仕事ということからは多分避けては通れない気がします。ユースの施設で仕事色があるところは見たことがないのですが、海外ですと、例えばアメリカだとビル・ストリックランドというものがあります。若者の中で生活が難しい子たち向けに、センターが運営されています。そういう中で色々な企業がブースや部屋みたいなものを持っているのです。その中で面白いのはそこで短期の職業訓練みたいなものをそれぞれの部屋で行いながら、直接的に仕事というわけではないものもあり、例えばジャズ、アート、そういうものも含めて展開をされている。そこで人生を新たに見直して、再出発を図っていくようなところもあったりするのですが、そういう意味ではNPOも話題になりましたが、企業も一緒に共創するメンバーとして若者が魅力に感じるような機会提供に協力していただく体制を作っていけるとすごく良いのではないかと。また、昨今企業からのボランティアの受入や何か一緒にしたいという話はNPOにはたくさん来ます。たくさん来るのですが、それからどうしようというのがほとんどです。企業が今往々にして言っているのは、放課後の子ども教室なのですが、子どもはいるけどネタはないというのが現実的です。出張していろんなことやっているところは多くなってきていて、これから社会の中で活発に活躍していく若者が増えてほしいと願っている企業は少なくないと思います。そういう意味で、あくまでも共創という理念に共感・理解をしている企業に縛る必要性はあると思いますが、その上でそういった施設等を一緒に作っていく。もちろんお金を出していただくということになると思いますが、そういったことも含めて一緒に何かしていくことができれば、従来の職業訓練とはちょっと違った形で若い人たちに合った形で提供ができ若者のステップとしては非常に有意義な側面があるの

ではないかと思いましたが、今までの議論とは違う点で意見を申し上げました。

○青山副委員長

ありがとうございます。1ヶ月コースとか、2ヶ月コースとかというのもあっても良いですね。

○岩切委員

職業訓練とかも若者に勧めても行きにくいというのもあり、内容が前のものだったりしているところもあったりして、なかなか足を運びにくいということはよく耳にしています。若者のシェアハウスや無料定額の宿泊場が公共で設置されていますが、ちょっと年齢の高い方々が中心なので、ルールも含めてちょっと行きにくくて、NPOの若者が集まっているシェアハウスの方が行きやすいというのと似ているところが職業訓練もあるかなと感じています。

○青山副委員長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○倉持委員

はい。倉持です。今のお話ですが、小池委員の資料も含めて、福祉、キャリア、教育、文化スポーツのようなところが、重なり合って一つの拠点施設になる、縦割りではなくて若者というところで括られ繋がっていると考えると、すごく魅力的だなと思いました。

そして東京都の特色、東京都の若者の特色、東京都の若者施設の特色が何なのかと考えていて、それが何かを今言えるわけではないのですが、うまく施設のカラーに出せたらいいのではないかと思います。企業についても、新たなターゲットというところで高校生以上を中心とした多様な子供・若者を支援・サポートするだけでなく、共創ということで若者と新しい価値とか活力を創造したいNPO、企業、基礎自治体、団体等で、若者の意見を聞いて次の施策に活かすことや、若い世代の人たちの意見を都政なり将来の世代づくりに活かしていく思想、像が描けたら、多様な若者が集まる東京ならではの像が描けるのではないかと思います。

○青山副委員長

ありがとうございます。登場人物として出てきてないのは大学とか高等教育機関で、そこと組んで何か出来るのは面白いですね。ハード面で理系の新しい実験的な施設が中に入ってくるとか、ソフト面で人権とかいろんな分野が入ってくるとか、もっと大規模に大学と組んで1ヶ月の短期留学生たちが集まって交流が始まるとか。日本でなかなかやりにくいと思いますがフォルケホイスコーレのように1ヶ月生涯学習をして余暇を楽しむよう

なことが泊まりながら出来たりすると良いですね。こういうことが出来ると、大学が登場人物になってくることにも意味があるなと思います。他の委員いかがですか。

○王委員

キャリアに関するイベントは開催数が多く、一つのイベントに参加したときに、そこで出会った人に次の一步を紹介してもらえることが特徴だと感じております。また、キャリア教育のイベントを主催する側として、様々なロールモデルである個人の社会人を声かけることが多く、平日の有休をとって一緒に社会人が集まってプログラムが形成されている様子があります。施設でいろんな団体が集まっていると、それぞれいろんな主催者たちと繋がって、より集めやすくなると感じます。キャリア教育において団体たちに横の繋がりを提供できることはとても重要と思っています。

○青山副委員長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○岩切委員

先ほど多摩のボランティアの話が出ていたので気になっていたのですが、BumB とかでも本来はもっといろんな機能があっていいですが、そこまで今は充実している状況ではないかと思います。アメリカだとシティーイヤーという全米規模の NPO がありまして、レッドジャンパーという赤いジャンパーを着て、一年間はコミュニティプログラムのために尽くすというもので、ピースコーと同じような扱いなのですが、それに入っていることがステータスとされています。そういう意味では、今まで何度もギャップイヤーの話が出てきましたが、以前よりかはやりやすくなったのですが、そのままになっている印象があります。例えば進学・就職が決まった後の一年間でも良いのですが、そういった施設が中心になりながら、コミュニティに対して自分たちが何を出来るかを一緒に考えて行動するような地形を作る。日本では何もしてなかった期間をブランクみたいな言われ方をしてしまうので、プログラムに所属して活躍していた期間にしてあげる。もしかしたら東京都の逆に裏側のデメリットもあるかなと思っていて、地域に対する所属感はすごく低いと思います。その点は、島の子たちとは桁違いで、どこでもいいしここじゃなくてもいいという感覚が東京の場合は他に比べると強い気がします。そういう意味では、何か都の課題とかにチャレンジしてくような若者たちが、一年限定でフルコミットできる期間みたいなものが出てくるとものすごく大きな力になりますし、それが両方の施設で行えるのはとてもいいことで、そういうアグレッシブな形の若者の受け止め方もあっていいのではないかと思います。

○青山副委員長

ヨーロッパのユースセンターでは、大体 EU のプログラムで他の国のボランティアが一年くらいいて、どこでも国際色が豊かになっているところがありますね。他にいかがでしょう。よろしいですか。ここから資料にしていくのは大変かもしれませんが、第4回は一旦ここで区切りたいと思います。事務局にお返しします。

○田畑課長代理

はい、ありがとうございます。五十嵐委員長、青山副委員長と皆様ありがとうございます。また本日は委員の皆様2時間貴重な御意見いただきまして本当にありがとうございます。これまで4回皆様からご意見をいただいてまいりましたところで、次回が年度明けになります。最後という事でこれまでの議論と今回いただきました機能と目的、あと特色といったものも含めて検討委員会としてまとめていければなと考えているところでございます。第5回は令和6年度という事で年度明け開催を予定しておりますので、改めてご調整させていただければと思っております。以上をもちまして区部ユース・プラザ基本構想検討委員会、第4回目を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

午後 5 時 00 分 閉会